



学校だより

# 伸びゆく子

令和5年1月31日  
横浜市立中沢小学校  
2月 月号

## 続・校庭のバナナ

学校長 川又 美貴子

十年ぶりともいわれる大寒波に日本列島が覆われた日には、横浜でも強い風と共に初雪が観測されました。暦の上では大寒を過ぎ、一年で最も寒さの厳しい時期ですが、休み時間の校庭では、児童運動委員会主催のドロケイ大会「中沢オリンピック」が開催され、寒さに負けない子どもたちの元気な声が響いています。

冬休み明けから、校内では3年ぶりにインフルエンザ感染の報告が出始め、1月末までに2学級を閉鎖する状況となりました。新型コロナウイルス感染症が流行し始めてから、インフルエンザはしばらく鳴りを潜めていたのですが、そのブランクのせい、あつという間に広がる様子が見られています。コロナの陽性報告も断続的にみられているものの、最近はここまで一気に広がるのがなかったので、今回のインフルエンザの感染の様子には驚くばかりです。完全に感染を防ぐことは難しいかもしれませんが、ドロケイ大会のように元気に体を動かして体力を高めると共に、月一度の「元気アップタイム」での健康的な生活習慣の意識づけなどを通して、抵抗力を高めていけるよう、引き続き取り組んでいきたいと思えます。

さて、昨年の10月にも学校だよりでお伝えしましたが、校庭に実ったバナナを年明けに収穫しました。とはいっても、木になっている状態では緑のまま、どうやら収穫してから追熟させる必要があるようです。10月から収穫のタイミングを計っていたものの、誰にもその正確な時期がわからないため、なすすべなく見守り続けた結果、年明けには木が枯れ始め、バナナも緑のまま一部が黒くなっています。これは大変と慌てて収穫し、その後、少しでも温かい環境にと校長室に置いて、黄色くなるか観察を続けています。栄養教諭は特に興味津々で、収穫したての緑の時にも「食べてもいいですか。」と志願し、校長始め数名で食べてみました。若干のえぐみはあるものの、遠くにバナナを感じる、甘みのない芋のような感じです。更に緑のバナナを電子レンジで加熱すると、やや食べやすく、更に芋感が増したそうです。毎日、給食の時には廊下側の扉を開け、当番で通る子どもたちが様子を見守れるようにしているのですが、「黄色くなるのかな。」「いや、この寒さではだめでしょ。」「少し黄色くなってきたみたい。」と、みんな気にかけています。何年後になるかわかりませんが、育て方をマスターし、みんなで食べられる日が来たらいいな、と淡い期待を抱いています。

